

気象界消息

1. WMO 海上気象委員会第4会期開催

11月23日から12月8日まで、上記がジュネーブで開かれ、日本からは柴田淑次、気象庁海洋気象部長が出席するため、11月13日離日した。

2. 国際地震集報委員会の開催

11月14日から11月20日までエジンバラで、上記が開かれ、日本から気象庁、広野卓蔵地震課長が出席した。

3. ラビツケ博士の来日

11月17日夜、ドイツ、ベルリン自由大学の気象地球物理研究所、成層圏研究室長、Dr. Karin Labitzke 夫人が来日した。ボールダーの NCAR から帰独の途中、立ちよったもので、同夫人の祖父は日本人だとのこと。

4. 北海道に初雪

10月23日夜、北海道の中部から北にかけて、今冬の初雪が、昨年より17日も早く降った。平年に比べれば3日早く、このため稲が全滅し、被害は甚大とのことである。

5. 寒波の来襲

10月26日、支那大陸から寒冷前線が日本へ来襲、各地の気温は急激に下り、関東地方の山々にも雪が降った。

6. ザクレブ市の洪水

ユーゴスラビアのザクレブ市は大雨を呑みこんだサバ河の氾濫のため、10月26日から全市が水に没したとのことである。この洪水はユーゴスラビアの北部一帯をおそい、4万人の人々が高地へ避難しているという。

この雨はユーゴスラビア北部に約2週間以上降り続いたもの、26日夜半には水勢がやや弱ったと報じられたが、27日にはドラバ河が氾濫を始め、ユーゴスラビアとハンガリーの国境地帯も洪水におそわれているという。

7. 渡り鳥の来日も例年より早い

冬に先がけて、4羽の白鳥が新潟県に11月1日早朝、姿をあらわした。これは平年よりも約2週間早く、シベリアの冬が早く来たことを物語るものである。

8. ヴェトナムに台風

南ヴェトナムに2個の台風が襲い、異常なモンスーン大雨が11月1日から降り続き、11月11日になってようやくやんだ。このため各地の洪水の被害は多大といわれ

る。

9. 南部イギリスに濃霧

11月10日夜、スコットランドからイングランド南部に濃霧が発生、交通を途絶させ大混乱をおこした。

10. マレーシアの洪水

ここ17年来の大雨がマレーシアの北西部に降り、11月11日には洪水が起っていると報じられた。

11. 地震各地にひんびん

11月16日にサン・フランシスコで、11月15日にはモロッコのカサブランカで地震があったと報じられたが、11月16日には赤城山麓に震央がある地震が関東地方におこった、これは11月14日、15日の両日にあった地震と同程度のもので、11月15日の地震は関東・東海にも感じられた、筑波山麓に震央がある地震であった。ところが気象庁が震度0と発表したため、他の熊谷、宇都宮の震度3、横浜・前橋等の震度2と比べて、おかしいとジャーナリストが騒ぎ、気象庁ビルの堅牢さを誇っているのか、それとも地震観測は木造の建物の中でおこなわねばならないのか、地震国だけに問題が多い。

12. アメリカ中西部の嵐

ロッキー山脈の嵐は11月15日にやや衰えて、中西部に雨をふらせた。この雨は乾燥しきった山林におこっていた山火事にふりそそぎ、5ヶ所の山火事がようやく火勢も衰えはじめた。

13. 台風ルイズ、フィリピンへ

11月18日、台風ルイズがミンダナオ北部に上陸した。その後20日にはセブ島附近に達し、山くずれと洪水のため、死者は23名にのぼっているという。

14. ニュージーランドに火山

日曜島として知られているラオール島に11月14日、火山活動が起った。この島には気象観測所があるだけで、補給船が年に数回おとずれるだけだとのこと。

15. 桜島、爆発

桜島が11月15日に噴火した。被害はない。

16. エル・サルドバルに地震

11月15日、エル・サルドバルにかなりの地震が感じられた。被害はない。